

27年3月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成27年 2月20日～ 27年3月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27年3月	4月	5月
入荷動向	国産材	△ 8.3	△ 16.7	△ 8.3
	外材	△ 16.7	0.0	0.0
在庫動向	国産材	35.7	28.6	8.3
	外材	41.7	41.7	33.3

・国産材ラミナの入荷は3ヵ月連続して減少、外材は3月の減少が4月、5月は横ばいに。

・国産材及び外材のラミナ在庫は3ヵ月連続して増加。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27年3月	4月	5月
国産材	0.0	8.3	8.3
欧州材	△ 12.5	△ 12.5	△ 25.0
その他	50.0	50.0	50.0

・国産材ラミナの入荷価格は3月の横ばいが4月、5月はやや強保合に、欧州材は弱含みで推移、その他は強含みで推移。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・スギラミナの入荷はほぼ順調、カラマツ北海道産ラミナは2月の天候不順で若干入荷遅れている。スギ製品荷動き悪いため在庫は増えている。カラマツ製品荷動き悪いためラミナの入荷調整中。
・国産原木は予定通り入荷。
・順調に入荷。適正在庫よりやや過剰。
・ラミナ入荷は、コンスタントに行われている。
・ヒノキ、米ヒバとも順調に入ってきている、未だ余るくらいの感じ。更に、減産が必要なのか？3月の最終見通しを踏まえて、4月の生産数量を考えないといけない。思った以上に荷動き悪く、4月も見通しがたっていない。1月まではヒノキ好調だったが、2月はヒノキ、米ヒバとも落ち込み。

(ラミナ価格動向)

・スギラミナ価格は横ばい。カラマツ北海道産ラミナは4月からの値上げ要請との情報があるが、未だ要請来ていない。
・秋田はスギ丸太が高く、ラミナ価格は下がらない、円高に振れ、円貨では下落となる。
・為替変動大きいため、今後の入荷額は下がる。
・国産材は価格落着いている。米ヒバは為替分、120円に向かってじわじわと上がっていく。

27年3月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27年3月	4月	5月
生産動向	国産材	△ 28.6	△ 14.3	7.1
	WW集成管柱	△ 66.7	△ 66.7	△ 50.0
	RW集成平角	△ 50.0	△ 40.0	△ 30.0
	米マツ集成平角	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	△ 41.7	△ 8.3	0.0
	WW集成管柱	△ 83.3	△ 50.0	△ 33.3
	RW集成平角	△ 70.0	△ 30.0	△ 20.0
	米マツ集成平角	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材集成材の生産は3月、4月の減少から5月は増加に、国産材以外の集成材は3ヵ月連続して大きく減少。

・国産材集成材の出荷は3月、4月の減少から5月は横ばいに、国産材以外の集成材は3ヵ月連続して大きく減少。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	27年3月	4月	5月
スギ集成管柱	△ 40.0	△ 20.0	△ 20.0
ヒノキ集成柱	△ 25.0	△ 25.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
RW集成平角	△ 30.0	△ 50.0	△ 30.0
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	△ 50.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

・スギ集成管柱の出荷価格は弱含みで推移、ヒノキ集成柱は3月、4月の弱含みが5月は横ばいに、ヒノキ集成土台及びカラマツ集成土台は3ヵ月連続して横ばい。

・WW集成管柱及びRW集成平角は弱含みで推移、米マツ集成平角及びカラマツ集成平角は3ヵ月連続して横ばい、米ヒバ土台角は3月の弱含みが4月、5月は横ばいに。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き)

- ・生産需要は減退するも、ラミナ入荷は潤沢で生産は順調に推移。引き続き受注量に応じた生産体制に変化はなし。
- ・需要が弱く生産調整が必要である。荷動きは相当悪い。
- ・販売不振で減産。2月、3月ともに出荷減。
- ・国産材に力をいれている状況。
- ・生産数量は、12月100として、2月90、3月85だが、これでも在庫がかなり積み増しされてきている(EWのみ)。ヒノキ無垢はちょうどいいくらいだったが、EWは23%くらい減。

(構造用集成材出荷価格動向)

- ・スギの受注バランスは依然として整わず、大手メーカーの安値玉が聞かれるも、売価はもはや限界を超えており、追随は出来ない。カラマツは依然原料コストが高く、採算面で厳しい。引き合いも減少し相場的には値下げだが、コストの問題から最悪でも現状維持していきたい。
- ・大手ハウスメーカーの着工数は少し(20%)減少するも5月以降は持ち直す見込み。
- ・スギ管柱の下落が著しい。WW、RWとも日毎、値下がりしている。
- ・2月価格をピークに下がる。4月以降の予測がわかりづらい状況。
- ・若干下がり傾向。
- ・ヒノキEW柱は、大手ハウスメーカーが2~4月は着工にブレーキを踏んでいるため少ない。一般も仕事量が少なく、少しサービス価格を用意しなければ買う意欲に結びつかない。ヒノキEW土台は仕事が底、春以降の見積もり打診では、「よそはもっと安いよ」と言われそうで値段が出せない。米ヒバ土台角は一番深刻、全然でないわけではないが、北陸~北海道の不調と大口顧客の決算月による在庫調整で苦しい。4月も仕事が余り見えなくて、一度にどっと取るようなことはなさそう。